



「日本語で、考え、話し、読み、書く」という 基礎力が勝敗をわける

M&Iコンサルティング 井上実 代表

数多くの企業の業績を改善されてきたM&Iコンサルティングの井上実代表に、
昨今の、企業での採用時で求められているものについて伺いました。



プロフィール

- 1976年 横浜国立大学文理学部理科（物理）卒業。
日本NCR株式会社入社。金融担当事業部でSE、営業、企画を担当。
- 1985年 株式会社CSK入社。OAシステム担当SEマネージャー、事業部長、営業部長を担当。
- 2002年 SAPジャパン株式会社入社。ビジネスコンサルティングを担当。
- 2003年 静岡産業大学経営学部非常勤講師に就任（兼務）。情報産業史を担当。（～2005年3月）
- 2005年 グローバルナレッジネットワーク株式会社入社。コンサルティング、講師を担当。
- 2008年 実践女子短期大学非常勤講師に就任（兼務）（～2009年3月）。
- 2011年 株式会社 モバイルインターネットテクノロジー顧問（～2011年9月）
- 2011年 M&Iコンサルティング 代表（研修講師・コンサルタント）

M&Iコンサルティングのご紹介

- M&Iコンサルティングで実施している業務内容を教えていただけますか？

井上）主な業務としては、ITコンサルティングと研修講師をしています。ITコンサルティングはIT戦略の立案
やIT人材育成体系構築のお手伝いを主にしています。研修講師は、コンサルティング・スキル、ヒュー
マン・スキル、経営知識、業務知識などをIT企業や一般企業のIT部門の方々に対して研修を行っています。

企業で求められている日本語

- 井上先生は、今まで多くの大学生や新入社員の方を教えてこられたと思いますが、最近の若者についてお感じ になっていることがあれば教えていただけますか。

井上）そうですね。最近、ある大手IT企業採用担当者の話がとても印象的でした。その方が「今年は適性検査で
落ちてしまう学生が多い」と言うのです。これを聞いて、「やはりね」と思いました。原因は、国語力、
日本語力の不足。特に読解力ですね。昨年、新入社員研修講師をしていて、日本語で考え、話し、読み、
書くという基礎力の低い新入社員が多いことに驚かされていましたので、来るべき時がきたかという感じです。

- 大学生の日本語力が低下しているということなのでしょうけれど、何が原因なのでしょうか。

井上）大学も全入時代に入り、「大学を卒業した」＝「ある一定のレベルの知識とスキルを持った人」という保証
はなくなり、大学生の知識、スキル、精神年齢の各々のレベルはバラバラになっています。そのレベルの個
人差が、日本語で考え、話し、読み、書くという基礎力にも及んでいるということだと思います。このまま
では、就職試験の第一関門である適性検査で落ちる学生が増えていきます。

- これから、大学生を社会に出す大学の関係者、そして、大学生を受け入れる企業はどうしたらいいのでしょうか。

井上）大学の関係者の皆さんには、ぜひ学生に日本語で考え、話し、読み、書くという基礎力を学生に身につかせ
てください。日本語も学ぶ時代になったという認識を持ってほしいです。
また、運よく就職できても、落ちこぼれていく若者が増えていきます。企業の方々には、技術的な研修を行うだ
けではなく、日本語で考え、話し、読み、書くという基礎力を身につけさせる研修を新入社員への実施を必修
にすべきでしょう。いずれにしても、まずは自分の日本語力のレベルを測り、認識することから始めるべきで
しょうね。

- 私たち日本語検定委員会としても、一人でも多くの若者が日本語力を身につけ、日本語で考え、コミュニケーション をとって、人生を生き抜いて欲しいと願っています。井上先生、本日は誠にありがとうございました。